

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和8年4月10日時点

| | 開催日時 | 開催形式(場所) | 名称 |
|----|--|-----------------------|--|
| 1 | 4月11日(土) 9:00~17:45 4月12日(日) 9:00~12:00 | 宇都宮大学陽東キャンパス | 公開シンポジウム「第72回構造工学シンポジウム」 |
| 2 | 4月12日(日) 13:30~16:30 | ハイブリッド (日本学術会議講堂) | 公開シンポジウム「四季の環境変化を生き抜く生物の知恵と時間の科学 ~体内時計と季節~」 |
| 3 | 4月18日(土) 15:00~16:30 | 朱鷺メッセ新潟県コンベンションセンター | 公開シンポジウム「周術期等口腔機能管理の意義と課題」 |
| 4 | 4月23日(木) 9:00~12:00 14:00~17:00 | 東京国際フォーラム「ホールC」「ホールD」 | 共同主催国際会議市民公開講座「ペットと飼い主の健康 Thanks Buddy !」 ※資料等、後日掲載予定 |
| 5 | 4月24日(金) 9:00~11:00 | 東京国際フォーラム「ホールB5」 | 共同主催国際会議市民公開講座「ワンヘルスのいろいろなカタチ」 ※資料等、後日掲載予定 |
| 6 | 5月8日(金) 13:30~17:00 | ハイブリッド (日本学術会議講堂) | 公開シンポジウム「我が国の創薬力強化に向けた産学官の統合戦略と人材育成」 |
| 7 | 5月9日(土) 13:30~16:00 | オンライン開催 | 公開シンポジウム「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材：第3回」 |
| 8 | 5月9日(土) 14:00~17:00 | オンライン開催 | 公開シンポジウム「生物知性と人工知性の融合が生み出す未来」 |
| 9 | 5月10日(日) 13:00~17:00 | 日本学術会議講堂 | 公開シンポジウム「大学は多様性とどう向き合うか：イノベーション、人権、インターセクショナルリティ」 |
| 10 | 5月16日(土) 9:00~13:00 | サンポートホール高松 | 公開シンポジウム「健康増進と安全性のための食品・栄養科学：日韓国際シンポジウム」 |
| 11 | 5月19日(火) 13:00~15:05 | オンライン開催 | 公開シンポジウム「国際シンポジウム：誤情報・偽情報時代のリスクコミュニケーション：食品安全に資する正確な情報伝達」 |
| 12 | 5月21日(木) 13:00~15:00 | 沖縄コンベンションセンター | 公開シンポジウム「ライフステージからみた口腔機能の獲得・維持・向上と全身の健康」 |
| 13 | 5月23日(土) 14:00~17:00 | オンライン開催 | 公開シンポジウム「世界観と地域の多様性から考える人と自然のウェルビーイング」 |
| 14 | 5月26日(火) 9:30~17:30 | ハイブリッド (日本学術会議講堂) | 公開シンポジウム「第38回環境工学連合講演会」 |
| 15 | 5月29日(金) 13:00~17:30 | ハイブリッド (日本学術会議講堂) | 学術フォーラム「気候変動と社会変化を迎える今、国土の未来をどう考えるか(豪雨災害からの安全と豊かな暮らしを実現するために)」 |

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。





主催 日本学術会議
共催 土木学会
日本建築学会

"Twin Bridge Noto" © Kyoto Prefectural Government et al., CC BY-NC-SA 4.0, modified

第 72 回 構造工学シンポジウム 記念講演会 構造工学の視点から考える地域防災

無料

2026年 4月 11日 (土) 15:00~17:45

宇都宮大学 陽東キャンパス 10号館 1階 アカデミアホール

オンライン (Zoom)

開会挨拶

佐々木 葉 (早稲田大学)

米田 雅子 (防災学術連携体)

特別講演「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」(予定)

竹内 徹 (東京科学大学名誉教授)

パネルディスカッション「地域防災に貢献する構造工学」

荒木 康弘 (国土技術政策総合研究所)

石井 大一郎 (宇都宮大学)

鎌田 泰子 (神戸大学)

藤倉 修一 (宇都宮大学)



詳細はこちら

第 72 回 構造工学シンポジウム

主催 日本学術会議
共催 公益社団法人土木学会
一般社団法人日本建築学会

本シンポジウムは、構造工学論文集 Vol.72A・B に掲載された論文等に関する発表や、構造工学分野における主要なテーマについて専門家の講演を行い、研究者や技術者の産官学を横断した学術技術交流の場となることを目的として開催します。

会期 2026年 4月 11日(土)
4月 12日(日)

会場 宇都宮大学 陽東キャンパス
所在地：[栃木県宇都宮市陽東 7-1-2](#)
最寄駅：宇都宮ライトレール
宇都宮大学陽東キャンパス停留所

参加費 無料

申込み 不要 *記念講演会オンライン参加は要申込み

一般講演会

構造工学論文集 Vol.72A (土木部門)・B (建築部門) に掲載された論文・報告・総説について、著者による口頭発表(発表 10分と質疑 5分)を行います。

日時

4月 11日(土) 10:15~14:45

4月 12日(日) 9:00~12:30

会場

8号館 2階 821~825 教室

10号館 1階アカデミアホール

プログラム

4月 11日(土) pp.5~9

4月 12日(日) pp.10~14

構造工学論文集 Vol.72A・B

シンポジウム開催までに J-STAGE にて無償公開されま
す。論文は次のリンクから閲覧できます。

[Vol.72A \(土木部門\)](#) / [Vol.72B \(建築部門\)](#)

記念講演会

「構造工学の視点から考える地域防災」

2024年1月1日に能登半島で発生した M7.6 の地震では、珠洲市や輪島市をはじめとする地域において多数の木造建物が被害を受けるとともに、土砂崩れや道路の寸断などが発生し、住民生活に深刻な影響を及ぼしました。さらに、同年7月には豪雨災害も発生し、これらの複合的な災害の影響により、長年居住してきた住民の地域外への流出が継続しています。

国内各地域での大規模災害に対応した防災体制や復興計画を如何に構築するかは喫緊の課題です。構造工学は、防災・減災の基盤を成す分野であり、地域防災や強靱な街づくりの議論には欠かすことができません。

本シンポジウムの開催地である栃木県は、2011年東北地方太平洋沖地震、2015年豪雨による鬼怒川氾濫などの自然災害を経験しています。また、会場である宇都宮大学では、防災に関わる教育・研究・地域連携を総合的に推進する地域防災に力を入れています。

今回の記念講演会は「構造工学の視点から考える地域防災」をテーマに、特別講演では、能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備えに関して日本学術会議での議論を紹介します。その後のパネルディスカッションでは、2024年能登半島地震等の事例を踏まえ、地域防災さらには広域の防災・減災対策を建築構造、土木構造を対象とした構造工学の視点から振り返り、地方だけでなく首都圏等における今後の防災・減災に関わる技術を議論していきます。

日時

4月 11日(土) 15:00~17:45

会場

10号館 1階アカデミアホール

オンライン (Zoom) *CPD 対象外・要申込み

プログラム (各タイトルは現時点での予定です)

1. 開会挨拶 (15:00)

佐々木 葉 (日本学術会議土木工学・建築学委員会副委員長
/早稲田大学理工学術院教授/前 土木学会会長)

米田 雅子 (防災学術連携体代表理事/宇都宮大学理事/
前 日本学術会議土木工学・建築学委員会委員長)

司会：永野 正行 (東京理科大学)

2. 特別講演 (15:10)

能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく
広域地域災害への備え

竹内 徹 (日本学術会議土木工学・建築学委員会委員長/東
京科学大学名誉教授/前 日本建築学会会長)

司会：永野 正行 (東京理科大学)

3. パネルディスカッション (16:15)

地域防災に貢献する構造工学

「2024年能登半島地震等における建物被害」

荒木 康弘 (国土技術政策総合研究所住宅研究部住宅生産研究室室長)

「大都市圏フリンジにおけるコミュニティと地域防災」

石井 大一郎 (宇都宮大学地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科地域デザインセンター地域防災部門長)

「災害時の線状インフラの機能を再考する」

鎌田 泰子 (神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻教授)

「橋は地域の生命線-地震後に“使える”構造をめざして」

藤倉 修一 (宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科教授)

司会：山本 憲司 (東海大学)

田井 政行 (摂南大学)

オンライン参加 (Zoom) の申込み

オンライン参加をご希望の方は [Web 申込みページ](#) よりお申込みください。Zoom の参加 URL はお申込み完了後に自動送信される以下のメールに記載されています。

件名：【日本建築学会】お申込み受付完了通知
(Thank you for your application.)

送信元：sympo@aij.or.jp

宇都宮大学の会場にご参加の場合は申込み不要です。

交流会 (関連行事)

初日の記念講演会終了後に、一般講演会参加者や記念講演会講師を交えた懇親会が開催されます。

主催

一般社団法人日本建築学会 構造委員会
構造工学論文集編集小委員会

日時

4月11日 (土) 18:00~19:30

会場

11号館1階アクティブラーニング教室

会費

5,000円 (予定・現地支払い)

参加意向アンケート

交流会への参加をご検討されている方は、[アンケートフォーム](#)へのご回答をお願いします。なお、ご回答は当日の出欠を制約するものではありません。

土木学会ポスターセッション (関連行事)

土木学会による若手ポスターセッション「[次世代構造技術者の Work in Progress](#)」が開催されます。

主催

公益社団法人土木学会 構造工学委員会
若手構造技術者連絡小委員会

日時

4月11日 (土) 11:45~15:00

4月12日 (日) 10:45~12:30

会場

8号館1階エントランスラウンジ

CPD 実績登録申請

土木部門

本シンポジウムは土木学会 CPD の認定プログラムです。申請方法は土木学会構造工学論文集編集小委員会 [Web ページ](#) をご覧ください。

建築部門

本シンポジウムは建築 CPD 情報提制度の認定プログラムです。実績登録をご希望の方は、当日中にシンポジウム受付にて申請名簿にご記名ください。

1日目：一般講演会2単位、記念講演会3単位

2日目：一般講演会3単位

記念講演会オンライン参加の取扱い

CPD 実績登録申請の対象外とします。

問合せ先

土木部門

■発表方法・論文集・プログラムについて

土木学会構造工学論文集編集小委員会幹事団

E-Mail：struct-eng@ml-jsce.jp

※開催期間中の緊急連絡も上記へお願いいたします。

■参加申込み・CPDについて

土木学会事務局 (岡崎)

E-Mail：okazaki@jsce.or.jp

建築部門・その他のお問合せ

日本建築学会事務局 (加藤)

E-Mail：kato@aij.or.jp

構造工学論文集 Vol.73 論文投稿のご案内

本年も構造工学論文集 A (土木部門) 及び B (建築部門) への論文投稿を募集しますので、皆様のご投稿をお待ちしています。投稿要領は、構造工学論文集編集小委員会の Web ページにて公開します。

・ [土木部門 Web ページ](#) (土木学会)

・ [建築部門 Web ページ](#) (日本建築学会)

季節を感じる。生きるリズムを知る。

四季の環境変化を生き抜く 生物の知恵と時間の科学

～体内時計と季節～

日時・場所

令和8年4月12日（日）13:30～16:30

日本学術会議 1階講堂

東京都港区六本木7-22-34 東京メトロ 千代田線 乃木坂駅 5番出口スグ

参加費無料・ハイブリッド開催

Zoomでの視聴も可能です



次第

13:30 開会の挨拶

深田 吉孝（東京大学名誉教授／東京都医学総合研究所客員研究員）

13:35 植物はなぜ季節を知ることができるのか？ ～動けない生き物の生存戦略～

遠藤 求（奈良先端科学技術大学院大学教授）

14:00 虫たちの冬支度 ～小さな脳が操る休眠の巧みな仕組み～

志賀 向子（大阪大学大学院理学研究科教授）

14:25 動物たちのカレンダー ～ヒトの季節性疾患の謎に迫る～

吉村 崇（名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長／教授）

14:50-15:05 休憩

15:05 季節とライフステージ ～食と健康への活用～

安尾 しのぶ（九州大学大学院農学研究院教授）

15:30 哺乳類の冬眠の謎 ～過去・現在・未来～

山口 良文（北海道大学低温科学研究所教授）

16:05 総合討論・質疑応答

16:25 閉会の挨拶

坂田 省吾（新潟医療福祉大学
心理・福祉学部心理健康学科教授）

主催： 日本学術会議生物リズム分科会
共催： 日本時間生物学会、日本睡眠学会
連絡先： 公開シンポジウム「体内時計と季節」事務局
Biological.Rhythms.and.Seasons@gmail.com
参加登録サイト：<https://forms.gle/a9U98R2au7veRdSj7>

日本学術会議公開シンポジウム

「周術期等口腔機能管理の意義と課題」



主催：日本学術会議歯学委員会 病態系歯学分科会、基礎系歯学分科会、臨床系歯学分科会

共催：日本口腔科学会

後援：日本歯学系学会協議会、日本生命科学アカデミー

令和8年(2026年)

朱鷺メッセ 新潟県コンベンションセンター
(新潟県新潟市中央区万代島6番1号)

4月18日(土)

15:00~16:30

申し込み＝参加費無料・事前申込不要

問い合わせ先＝大阪大学大学院歯学研究科 村上伸也

E-mail: murakami.shinya.dent@osaka-u.ac.jp

2012年に、がんを始めとして多種の疾患の治療をする医師らと連携し、手術時のみならず、化学療法や放射線療法などの治療の前後に歯科医師が包括的な口腔管理を行い、治療の過程で生じる合併症や有害事象の予防および軽減を目的として、歯科の診療報酬に周術期等口腔機能管理が導入された。その際、多くの歯科医師にとっては不慣れなものであったため、適切に実施するために全国で多くの講習会が開催され、学部学生や研修歯科医教育においても新たな分野として組み込まれた。その後、10年以上が経過したが、期待どおりの効果が得られているのか、医科歯科連携の実施体制や歯科医師の教育に問題はないかなどの検証が必要であろう。今回のシンポジウムでは、厚生労働省、実施の最前線である病院歯科、学部学生や研修歯科医教育に携わる大学の立場から、現状と課題、そして将来の展望について議論する。

プログラム

挨拶： 村上 伸也 (日本学術会議第二部会員／大阪大学 名誉教授)

講演

座長： 中村 誠司 (日本学術会議連携会員／九州大学 名誉教授)

後藤 多津子 (日本学術会議連携会員／東京歯科大学 教授)

『医科歯科連携の推進と課題～周術期等口腔機能管理の観点から～』

小嶺 祐子 (厚生労働省 医政局歯科保健課 課長)

『病院歯科で実施する周術期等口腔機能管理の現状と課題』

栗田 浩 (信州大学医学部歯科口腔外科 教授)

『大学で教育する周術期等口腔機能管理教育の現状と課題』

西 裕美 (広島大学病院口腔総合診療科 診療講師)

総合討論

進行： 中村 誠司 (日本学術会議連携会員／九州大学 名誉教授)

前川 知樹 (日本学術会議連携会員／新潟大学 教授)

討論者： 小嶺 祐子

栗田 浩

西 裕美

挨拶： 森山 啓司 (日本学術会議第二部会員／東京科学大学 教授)



公開シンポジウム
「我が国の創薬力強化に向けた産学官の統合戦略と人材育成」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会基礎系薬学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本薬学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年5月8日（金）13：30～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

7. 開催趣旨：

我が国の創薬研究は、基礎科学の高い水準を背景に世界を先導してきたが、近年は医薬品開発の高度化・複雑化に伴い、産学官のより緊密な連携と戦略的な研究基盤の整備が不可欠となっている。特に、革新的医薬品の創出には、基礎研究から臨床応用に至るまでのシームレスな研究推進体制の構築と、それを担う高度な専門性と広い視野を兼ね備えた人材の育成が求められている。

本シンポジウムでは、文部科学省及び国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）による創薬支援政策、製薬企業における研究開発の現状と産学連携への期待、大学・研究機関における創薬研究支援基盤及び博士人材育成の取組を俯瞰し、我が国の創薬力強化に向けた課題と将来展望について多角的に議論する。本シンポジウムを通じて、産学官の連携を更に深化させ、持続的な創薬イノベーションの創出と次世代を担う人材の育成に資する新たな方向性を示すことを目的とする。

8. 次 第：

13:30 開会挨拶

眞鍋 史乃（日本学術会議第二部会員／星薬科大学薬学部教授／東北大学大学院薬学研究科教授）

第1セッション「官からの取り組み」

13:40 『創薬力強化に向けた文部科学省の取組と今後の方向性（仮）』
倉田 佳奈江（文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長）

- 14:10 『革新的医薬品創出に向けた AMED の取り組み』
浅野 武夫 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構推進役)
休憩 (10 分)
- 第2セッション「学からの取り組みから企業連携へ」
- 14:50 『未来医療・共生社会創造人育成プロジェクト「BUTTOBE—NEXT」を通じた高度な薬学・生命科学博士人材育成への挑戦』
降幡 知己 (東京薬科大学薬学部創薬基盤科学教室教授)
- 15:20 『大阪大学薬学部の「研究型全6年制」薬学教育システムの現状と課題』
堤 康央 (日本学術会議連携会員／大阪大学大学院薬学研究科教授)
- 15:50 『生命創成探究センターにおける創薬研究支援 (仮題)』
加藤 晃一 (日本学術会議連携会員／自然科学研究機構生命創成探究センター教授)
- 16:20 『製薬会社の創薬研究所からの産学連携・協調への期待』
鳥澤 拓也 (中外製薬株式会社中外ライフサイエンスパーク横浜研究本部タンパク質科学研究部部長)
- 16:50 総合討論
総合司会
藤田 直也 (日本学術会議連携会員／公益財団法人がん研究会がん化学療法センター所長)

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

日本学術会議 公開シンポジウム

人口減少・人口偏在社会に求められる ヘルスケア人材：第3回

2026年 5月 9日(土) 13:30~16:00

オンライン開催 (YouTube配信)

参加費無料 要登録、登録はこちら ⇒

<https://vb.wufoo.com/forms/qhjdak30tbwc5x/>



総合司会

坂下 玲子 (日本学術会議連携会員)

綿貫成明 (日本学術会議連携会員)

開催挨拶

磯 博康 (日本学術会議副会長)

習田由美子 (厚生労働省看護課長)

(文部科学省高等教育局医学教育課長)

第1セッション

亀井智子 (日本学術会議連携会員・聖路加国際大学)

看護学における多職種連携教育の現在地と課題

三重野英子 (日本学術会議連携会員・大分大学)

大久保暢子 (日本学術会議連携会員・聖路加国際大学)

ヘルスケア人材の共通基盤教育の提案

第2セッション

野出孝一 (日本学術会議第二部会員・佐賀大学学長)

医学教育からみたヘルスケア人材の育成

伊藤祐子 (東京都立大学健康福祉学部作業療法学科長)

作業療法からみたヘルスケア人材の育成

指定発言 松本晴樹 (文部科学省高等教育局医学教育課 企画官)

主催

日本学術会議

健康・生活科学委員会ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会、(調整中)健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同共生社会に向けたケアサイエンス分科会、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会、臨床医学委員会

共催

一般社団法人 日本看護系学会協議会

後援

公益社団法人日本看護科学学会、一般社団法人日本理学療法学会連合、日本発達系作業療法学会、一般社団法人日本医療情報学会、一般社団法人日本医療・病院管理学会、日本運動疫学会、一般社団法人日本エイズ学会、一般社団法人日本衛生学会、日本衛生動物学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、一般社団法人日本疫学会、一般社団法人日本学校保健学会、日本健康学会、一般社団法人日本健康教育学会、日本健康支援学会、一般社団法人日本健康相談活動学会、一般社団法人日本口腔衛生学会、一般社団法人日本公衆衛生学会、一般社団法人日本公衆衛生看護学会、一般社団法人日本行動医学会、一般社団法人日本国際保健医療学会、日本子ども健康科学会(子どもの心・体と環境を考える会)、一般社団法人日本災害医学会、公益社団法人日本産業衛生学会、一般社団法人日本思春期学会、一般社団法人日本循環器病予防学会、公益社団法人日本小児科学会、一般社団法人日本職業・災害医学会、一般社団法人日本女性医学学会、一般社団法人日本性感感染症学会、一般社団法人日本地域看護学会、公益社団法人日本母性衛生学会、日本ワクチン学会

日本学術会議 公開シンポジウム

生物知性と人工知性の融合が

生み出す未来

開催日時

2026年 5月 9日 [土]
14:00 ~ 17:00



オンライン開催
要事前申込

<https://forms.gle/BdHYuGWS5drHjT578>

お申込はこちらから

開催趣旨

プログラム・登壇者は裏面（次頁）をご覧ください

シリコン半導体に依存した従来型計算機は、消費電力の増大や微細化の限界といった転換点に直面しており、新たな性能向上パラダイムの確立が求められている。一方、「宇宙で最も複雑なシステム」とも称される脳は、ノイズな環境下においても、極めて低消費エネルギーで高度かつ柔軟、自律的かつ自己組織的な知的情報処理を創発的に実現している。しかし、その計算原理の統一的理解や、計算資源としての実装方法は未だ確立されていない。

本シンポジウムでは、神経科学の知見やデータを理論とアルゴリズムへと昇華する「計算論的神経科学」及び「動物脳」に加え、脳オルガノイドや培養神経回路を含む「脳素材」を用い、脳の計算原理の検証と実装を目指す研究と、脳の理解を支える「脳データベース」を基盤とする研究の第一人者が集い、「生物知性と人工知性をいかに融合するか」という問いを掘り下げる。

生物学的脳が本質的に備える

自律性・自己組織性を内在した新たな計算素材の可能性を展望するとともに、柔軟性・頑健性・超低消費エネルギーを兼ね備えた「脳型計算機」や、生物知性と人工知性の融合に向けた研究の方向性を提示することを試みる。

主催：日本学術会議基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会
共催：日本脳科学関連学会連合
後援：一般社団法人日本神経科学学会、一般社団法人日本神経化学会、一般社団法人日本神経回路学会、一般社団法人日本神経学会、大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所

プログラム（予定）

◇総合司会 林（高木）朗子（日本学術会議連携会員／理化学研究所脳神経科学研究センター）

14:00 - 開会挨拶

高橋良輔（日本学術会議第二部会員／京都大学学術研究展開センター）

14:05 - 来賓挨拶

岡野栄之（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学医学部・再生医療リサーチセンター）

14:10 - 趣旨説明

和氣弘明（名古屋大学大学院医学研究科）

14:25 - 話題提供
（途中休憩あり）

◇座長 和氣弘明（名古屋大学大学院医学研究科）

花川隆（日本学術会議連携会員／京都大学医学研究科）

「何ができれば脳を理解したことになるのか？」

花川隆（日本学術会議連携会員／京都大学医学研究科）

「生成モデルのリバースエンジニアリングに基づく脳型AIの構築」

磯村拓哉（理化学研究所脳神経科学研究センター）

「大規模ヒト脳MRIデータのセキュア集約・共有基盤」

田中沙織（国際電気通信基礎技術研究所）

「大規模脳MRIデータから見える脳のライフスパンと知性」

林拓也（理化学研究所生命機能科学研究センター）

「脳オルガノイドの接続による機能拡張手法の開発」

池内与志穂（東京大学生産技術研究所）

16:20 - 総合討論

◇進行 和氣弘明（名古屋大学大学院医学研究科）

パネリスト

5名の話題提供者

伊佐正（日本学術会議連携会員／自然科学研究機構生理学研究所）

林（高木）朗子（日本学術会議連携会員／
理化学研究所脳神経科学研究センター）

藤山文乃（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院医学研究院）

村松里衣子（国立精神・神経医療研究センター神経研究所）

山本英明（東北大学電気通信研究所）

16:55 - 閉会挨拶

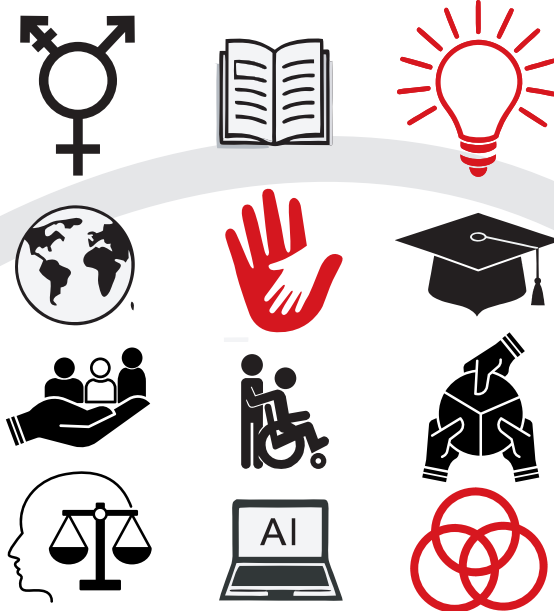
柚崎通介（日本学術会議第二部会員／慶應義塾大学WPI-Bio2Q）

お問い合わせ

自然科学研究機構生理学研究所 研究連携センター 学術研究支援室

E-mail : nou-shien(a)nips.ac.jp ※(a)を@にしてお送りください

How Universities Address Diversity: Innovation, Human Rights, and Intersectionality



大学が様々な背景を持ったあらゆる構成員にとって、安心して修学・研究・教育できる場であるために、大学はどのように「多様性」と向き合うべきなのか。これまで大学の「多様性」促進は、主に女性の登用や留学生の積極的受け入れ等によって展開し、「多様性」の促進がイノベーション等の学術の発展に不可欠であるという観点が強調されてきた。本シンポジウムではそうした有用性の観点からのみ多様性を推進するのではなく、大学の本質的な使命は人権の保障と真理の探究であるとの問題意識に基づき、「多様性」との向き合い方と大学の責任について多角的に議論を行う。

【日時】 2026年 **5月10日** (日) 13:00～17:00

【場所】 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7-22-34)

※参加費無料 ※事前申し込み不要 (定員200人)

【総合司会】 島岡まな (大阪大学教授、日本学術会議第一部会員)

【開会挨拶】 芳賀満 (東北大学教授、日本学術会議第一部会員)

【趣旨説明】 後藤弘子 (千葉大学理事・副学長、日本学術会議特任連携会員)

【進行】 臼井恵美子 (一橋大学教授、日本学術会議第一部会員)

【第1部 基調講演】

「〈多様性〉を切り拓く: 根源的課題を問い続ける」

岩淵功一 (シドニー工科大学名誉客員教授)

【第2部 学長が語る大学の多様性】

【モデレーター】 高橋裕子 (津田塾大学学長、日本学術会議第一部会員)

【登壇者】 喜納育江 (琉球大学学長)

Diana Khor (ダイアナ・コー) (法政大学総長)

【第3部 パネルディスカッション】

【モデレーター】 三浦まり (上智大学教授、日本学術会議連携会員)

【ディスカッサント】 板垣竜太 (同志社大学教授)

神谷悠一 (LGBT法連合会、日本学術会議特任連携会員)

窪田幸子 (芦屋大学学長、日本学術会議連携会員)

申恵丰 (青山学院大学教授)

【開会挨拶】 三尾裕子 (慶應義塾大学名誉教授、日本学術会議第一部会員)

【主催】 日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会 【連絡先】 paritypolitics2026@gmail.com

日本学術会議公開シンポジウム
大学は多様性にどう向き合うのか
 イノベーション、人権、インターセクショナルリテイ





日本栄養・食糧学会、韓国食品栄養科学会、
日本学術会議合同シンポジウム

KFN



JSNFS, KFN & SCJ Joint Symposium

健康増進と安全性のための食品・栄養科学：日韓国際シンポジウム

Food and Nutrition Science for Health Promotion and Safety: Japan-Korea International Symposium

共同主催：日本学術会議IUNS分科会

日時：16th May 2026 (9:00-11:30) 一般無料公開

会場：サンポートホール高松 4F第1小ホール



大会HP

Opening remarks

Hitoshi Ashida (Mukogawa Women's University / President, JSNFS)

Greetings

Sung-Soo Park (Jeju National University / President, KFN)

Asako Takenaka (Meiji University / Chair of IUNS Committee member, SCJ)

Presentation

Akiko Kuwabara (Osaka Metropolitan University)

"Vitamin D for lifelong health: integrating health promotion and disease prevention"

Takahiro Eitsuka (Tohoku University)

"Anticancer properties of tocotrienol and its mechanism of action"

Anna Han (Jeonbuk National University)

"K-jang, a traditional Korean fermented food, ameliorates obesity-induced inflammatory kidney damage via the gut-renal axis, independent of its high salt content"

Hyeon Woo Park (Korea University)

"AI-driven rapid pathogen detection: Transforming food safety with deep learning"

Closing remarks

Hirohito Sone (Niigata University / Vice- President, JSNFS)

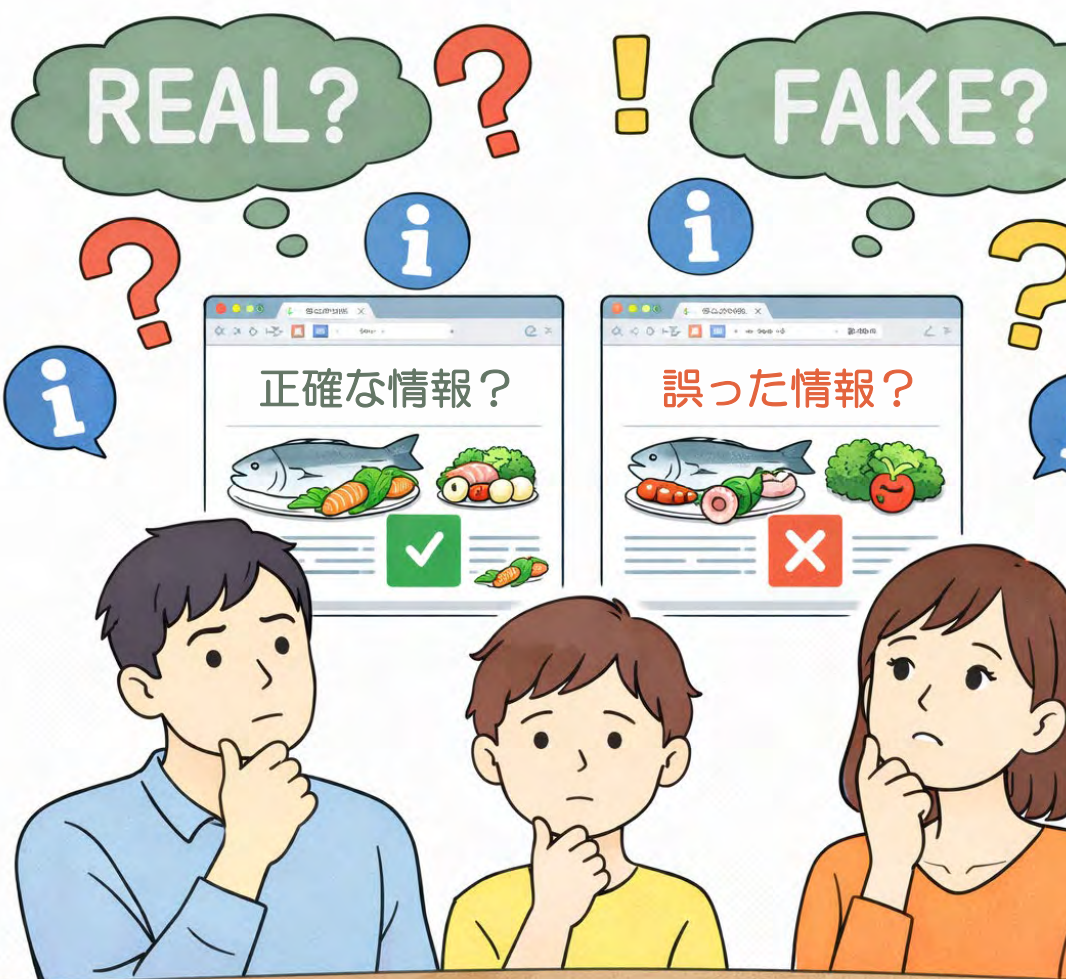
Moderator: **Tatsuya Sugawara** (Kyoto University /
Chair of International Academic Cooperation Committee, JSNFS)

Chair: **Youngseung Lee** (Dankook University /
Chair of the International Cooperation Committee, KFN)

Chair: **Hitomi Kumagai** (Nihon University /
IUNS Committee member, SCJ)

日本学術会議 国際シンポジウム
誤情報・偽情報時代のリスクコミュニケーション

食品安全に資する正確な情報伝達



- 13:00-13:05 開会挨拶
堀 正敏（日本学術会議 第二部会員/東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授）
- 13:05-13:25 「福島原発事故に関連して生じた食品に関する誤情報」
西澤 真理子（日本学術会議連携会員/株式会社リテラジャパン代表取締役）
- 13:25-13:45 「インターネット空間における誤情報とファクトチェック（仮）」
ハン・ステ（ジョージア工科大学博士課程大学院生）
- 13:45-14:05 「ファクトチェック：世論や市民の意見の理解と分析（仮）」
ニコラス・ファンク（Black Dot Research 創業者兼マネージング・ディレクター）
- 14:05-14:25 「ファクトチェック・ジャーナリズム（仮）」
立岩 陽一郎（InFact編集長）
- 14:30-14:55 パネルディスカッション及び質疑応答
「リスク・クライシスコミュニケーションにおける中核としてのファクトチェック」
モデレーター：
石塚 真由美（日本学術会議連携会員/北海道大学 大学院獣医学研究院 教授）
有路 昌彦（日本学術会議連携会員/近畿大学 世界経済研究所 教授）
西澤 真理子（日本学術会議連携会員/株式会社リテラジャパン代表取締役）
- 14:55-15:00 閉会挨拶 有路 昌彦（日本学術会議連携会員/近畿大学世界経済研究所 教授）



参加登録はこちらから

2026年
5/19
15:00-17:00
参加無料

ライフステージからみた 口腔機能の獲得・維持・向上と 全身の健康

日時 2026年 5月21日 木 13:00~15:00

場所 沖縄コンベンションセンター劇場棟 (C会場)
沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1

対象 どなたでもご参加いただけます

開催趣旨

人生100年時代を豊かに生きるためには、歯や口腔の健康を維持増進することが不可欠であり、とくに口腔機能の維持向上が重要となる。2018年、小児期の口腔機能の獲得・維持向上を支援するために「口腔機能発達不全症」がそして、高齢期における口腔機能の低下を予防・改善するために「口腔機能低下症」が新たな病名として、保険収載された。すなわち、ライフステージを通じて一貫した支援体制の整備が求められる時代となった。

そこで、本シンポジウムでは、小児期からの口腔機能の育成の重要性とその後の成人期の取り組みならびに高齢期における口腔機能の低下と全身的な健康の関わりについて理解を深める狙いから、日本小児歯科学会と日本学術会議歯学委員会によるシンポジウムを共催する。

プログラム

13:00 開会挨拶 村上伸也 (日本学術会議第二部会員、病態系歯学分会委員長、大阪大学名誉教授)

13:05 シンポジウム

座長 森山啓司 (日本学術会議第二部会員、臨床系歯学分会委員長、東京科学大学教授)
岩本 勉 (日本学術会議連携会員、日本小児歯科学会常務理事、東京科学大学教授)

13:05 オープニングリマーク

朝田芳信 (日本学術会議連携会員、日本小児歯科学会常務理事、鶴見大学教授)

13:15 講演1 小児期関連「小児期から始めるオーラルフレイル予防」

藤田優子 (日本小児歯科学会理事、長崎大学教授)

13:45 講演2 成人期関連「成人期における口腔機能の獲得と維持、向上の重要性」

大久保力廣 (日本補綴歯科学会理事長、鶴見大学教授)

14:15 講演3 高齢期関連「これからの摂食嚥下リハビリテーション」

戸原 玄 (日本老年歯科医学会理事、東京科学大学教授)

14:45 総合討論

14:55 閉会挨拶 樋田京子 (日本学術会議第二部会員、北海道大学教授)

参加費無料
事前申込不要



公開シンポジウム
「世界観と地域の多様性から考える人と自然のウェルビーイング」

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年5月23日（土）14：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり。

8. 開催趣旨：

2030年のネイチャー・ポジティブ、2050年の自然共生社会の実現に向けた取組が進む一方で、人と自然の関係のあり方については必ずしも十分に議論されていない。価値観や世界観が多様化する現代においては、自然観・倫理・文化・地域性を踏まえた多角的な検討が不可欠である。人間と自然を二項対立で捉える従来の枠組みに対し、非人間を一人前のアクターとみなす、文化相対主義の認識論を乗り越える存在論に重点を移すなど関連諸分野で様々な試みがなされてきた。仏教思想のレンマや民俗・伝承にみられる自然観など、多様な世界認識に基づくアプローチは、制度的・科学的枠組みに立脚してきた生態系管理・土地利用政策を根本から問い直す契機となる。

また、人間のウェルビーイングと地球環境問題の双方に応えるには、画一的な手法では限界があり、地域の文化・自然条件・内発的価値に根ざしたアプローチが重要である。都市だけでなく地域からの視点を重視し、多様性と包摂性を軸とした新たな「人と自然」関係の再構築が求められる。

本シンポジウムでは、倫理・文化・言語・認識論など多様な視点から最新の知見を共有し、ウェルビーイング向上と自然共生社会に向けた可能性を議論する。さらに、分野横断的な連携を通じて、現代社会・地域社会が抱える課題に学術がどう貢献できるかを展望する。

9. 次 第（案）：

- 14:00 開会挨拶および趣旨説明
- 14:05 第一セッション
- 休憩
- 15:20 第2セッション
- 16:25 総合討論
- 16:55 閉会挨拶

第38回 環境工学連合講演会

ネイチャーポジティブの実現 に向けた環境工学の役割

2026年5月26日(火)
日本学術会議講堂+オンライン開催

参加費無料
事前申込制

日時

2026年5月26日(火)9:30~17:30

参加費

無料

参加申込

URL : <https://pro.form-mailer.jp/fms/567a60e3346752>

定員

現地参加：130名/オンライン参加：500名
(申込先着順。定員に余裕がある場合は、当日参加も受け付けます。)

オンライン講演会
アクセス

上記URLよりお申し込みいただいた方に、開催前日までに、メールにてZoomおよび講演会論文集のリンク情報をお送りいたします。

問い合わせ先

(公社)空気調和・衛生工学会事務局 環境工学連合講演会担当
(E-mail: handa@shase.or.jp)

主催

日本学術会議 環境学委員会 環境科学・環境工学分科会

共催

化学工学会、環境科学会、環境資源工学会、空気調和・衛生工学会、資源・素材学会、地盤工学会、静電気学会、大気環境学会、土木学会、日本LCA学会、日本化学会、日本機械学会、日本建築学会、日本水道協会、日本セラミックス協会、日本鉄鋼協会、日本土壌肥料学会、日本分析化学会、日本水環境学会、廃棄物資源循環学会



参加申込フォーム
(Form mailer)

タイムテーブル

開会(9:30～9:40)

開会挨拶

北川尚美(日本学術会議第三部副部長/東北大学)

招待講演

環境評価と技術開発(9:40～11:00)

座長：奥田知明(日本化学会/慶應義塾大学)

サンゴ礁海域の希少微生物が生産する有用分子の構造と機能

岩崎有紘(日本化学会/中央大学)

持続可能な未来を支える静電気科学

朽久保文嘉(静電気学会/東京都立大学)

海洋酸性化の可視化と予測に向けた次世代半導体式pHセンシング技術の開発

中嶋 秀(日本分析化学会/東京都立大学)

環境負荷量を正確に把握するための大気中ガス・粒子オンライン観測・分析システムの開発

竹内政樹(大気環境学会/徳島大学)

産業と資源循環(11:10～12:30)

座長：松山智哉(日本機械学会/三機工業)

Nature-positive Approaches to Mineral Processing and Metallurgy: Green Gold Recovery and Reuse of Mine Tailings

鉱物処理と製錬プロセスへの

ネイチャーポジティブ的アプローチ：

環境に優しい金回収と鉱山尾鉱の再利用

JEON Sanghee

(環境資源工学会, 資源・素材学会/秋田大学)

ネイチャーポジティブとサステナブル社会形成を目指した鉄鋼スラグの活用と課題

高橋利幸(日本鉄鋼協会/都城工業高等専門学校)

炭素循環と地方創生を両立する

バイオマスガス化の技術的枠組み

義家 亮(日本機械学会/岐阜大学)

ネイチャーポジティブに資する横浜市水道局の取り組み～清らかな水を横浜へ。道志水源林の100年とこれから～

山口哲司(日本水道協会/横浜市水道局)

特別講演(13:30～14:00)

座長：小瀬博之(空気調和・衛生工学会/東洋大学)

建築環境におけるリジェネラティブデザインを目指して～サステナビリティのその先へ～

水出喜太郎(空気調和・衛生工学会/日建設計)

招待講演

陸と海的环境再生(14:10～15:50)

座長：中井智司(化学工学会/広島大学)

漁業者による持続的な海洋ごみ回収活動に関する環境経済モデル～対馬市の事例

中山裕文(廃棄物資源循環学会/九州大学)

都市港湾・運河のネイチャーポジティブへの転換～生物共生構造物の機能と実装～

上月康則(土木学会/徳島大学)

乾燥地及び沿岸域での生態系修復による温暖化対策へのアプローチ

酒井裕司(化学工学会/工学院大学)

ネイチャーポジティブに向けた

沿岸環境・生態系デジタルツイン開発への挑戦

東 博紀(日本水環境学会/国立環境研究所)

農地から発生する温室効果ガスとその削減

秋山博子(日本土壌肥科学会/

農業・食品産業技術総合研究機構)

自然共生と社会(16:00～17:20)

座長：小澤一喜(地盤工学会/鹿島建設)

製品のネイチャーフットプリント評価手法の開発～CO₂の生物多様性被害係数を例に

湯 龍龍

(日本LCA学会/農業・食品産業技術総合研究機構)

自然と人間との関わりを通じた

環境保全態度・行動の醸成

甲斐田直子(環境科学会/筑波大学)

人と自然との共生を考える建築環境

近本智行(日本建築学会/立命館大学)

ネイチャーポジティブ社会実現に向けた

ネイチャーテックの開発と地域連携

保高徹生(地盤工学会/産業技術総合研究所)

閉会(17:20～17:30)

第38回環境工学連合講演会の総括

森口祐一

(日本学術会議第三部会員/東京大学/国立環境研究所)

閉会挨拶

浅見真理

(日本学術会議連携会員/国立環境研究所)



気候変動と社会変化を迎える今、 国土の未来をどう考えるか

豪雨災害からの安全と豊かな暮らしを実現するために



近年激化の傾向を見せている豪雨水害に対しては、関係者全員で流域のすべての場所で治水を進めようという流域治水の考え方が打ち出され、従来のインフラ構造物の有効活用に加えて、自然生態系の機能を活用するグリーンインフラや、農地の活用、緑地の保全、安全な地域への移転など、土地利用計画と一体となった方策が模索されている。一方、少子高齢化や情報化に伴う大きな社会変化を迎える今、土地とその上で生活を育む人からなる国土の未来のあり方と、気候変動への適応とは一体的に議論されるべきである。日本学術会議では、気候変動と大規模風水害への適応策についての提言・見解を発信してきた。そこで浮き彫りにされた課題の解決と社会実装に向けて、第一歩、第二歩を踏み出すための展開について、学と行政、市民に向けた発信を行う。

会場 日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34

ハイブリッド開催 **参加費無料**



お申込み <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0366.html>

申込締切 令和8年5月25日(月) 事前参加登録をお願いします。

主催 日本学術会議

後援 公益社団法人 土木学会、一般社団法人 日本建築学会、
一般社団法人 防災学術連携体、一般社団法人 水文・水資源学会、
公益社団法人 日本都市計画学会、公益社団法人 地盤工学会

問合せ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 TEL 03-3403-6295

令和8年

5 / 29 金
13:00~17:30



気候変動と社会変化を迎える今、国土の未来をどう考えるか 豪雨災害からの安全と豊かな暮らしを実現するために

コーディネーター

清水 義彦 日本学術会議連携会員／国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター 研究・研修指導監

総合司会

平林 由希子 日本学術会議連携会員／芝浦工業大学工学部土木工学課程教授

有働 恵子 日本学術会議連携会員／東北大学大学院工学研究科教授

スケジュール

| | |
|------------------------------------|---|
| 13:00 ~ 13:15 | 開催挨拶・趣旨説明 |
| | 清水 義彦 日本学術会議連携会員・気候変動と国土の未来分科会委員長／国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター 研究・研修指導監 |
| Topic ハザード・リスクの科学的認識 | |
| 13:15 ~ 13:30 | 講演 気候変動による豪雨災害の激化 平林 由希子 日本学術会議連携会員・気候変動と国土の未来分科会幹事／芝浦工業大学工学部土木工学課程教授 |
| 13:30 ~ 13:45 | 講演 気候変動の流域土砂動態への影響 有働 恵子 日本学術会議連携会員・気候変動と国土の未来分科会幹事／東北大学大学院工学研究科教授 |
| 13:45 ~ 14:00 | 講演 土砂災害を引き起こす要因－地形とともに土の特性の理解が大切－ 小峯 秀雄 日本学術会議連携会員／早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科教授 |
| Topic 現場での実装に向けて | |
| 14:00 ~ 14:15 | 講演 流域治水の現場実装から－行政担当者を経験した研究者の立場から－ 瀧 健太郎 京都大学防災研究所水資源環境研究センター教授 |
| 14:15 ~ 14:30 | 講演 耐水建築の設計・普及を考える 田村 和夫 日本学術会議連携会員／建築都市耐震研究所代表 |
| 14:30 ~ 14:45 | 講演 マルチハザードに対応可能な建築とまちづくり 久田 嘉章 日本学術会議連携会員／工学院大学建築学部まちづくり学科教授 |
| 14:45 ~ 15:00 | 講演 事前防災を踏まえたまちづくり－その実践に向けて－ 田村 圭子 日本学術会議第三部会員／新潟大学危機管理本部危機管理センター教授 |
| 15:00 ~ 15:15 | 休憩 |
| Topic リスクを踏まえた豊かな暮らしへのアプローチ | |
| 15:15 ~ 15:30 | 講演 グリーンインフラの社会実装－その機能と価値観を実感させる手立て－ 村上 暁信 日本学術会議連携会員／筑波大学システム情報系教授 |
| 15:30 ~ 15:45 | 講演 ダムに貯まる厄介者を漁民はどう受け入れたか－ダム堆砂による干潟生物の再生－ 田井 明 日本学術会議連携会員／福岡工業大学社会環境学部社会環境学科教授 |
| 15:45 ~ 16:00 | 講演 治水施設を暮らしの空間へ－霞堤と調整池から考える国土と暮らしの未来－ 小野 悠 日本学術会議連携会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授 |
| 16:00 ~ 16:15 | 講演 持続可能な流域総合水管理へ向けて 沖 大幹 日本学術会議第三部部長／東京大学大学院工学系研究科教授 |
| 16:15 ~ 16:30 | 休憩 |
| 16:30 ~ 17:25 | 総合討議 |
| | 司会 清水 義彦 日本学術会議連携会員・気候変動と国土の未来分科会委員長／国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター 研究・研修指導監 |
| | 持田 灯 日本学術会議連携会員・気候変動と国土の未来分科会副委員長／東北大学名誉教授 |
| | パネリスト 小峯 秀雄 日本学術会議連携会員／早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科教授 |
| | 久田 嘉章 日本学術会議連携会員／工学院大学建築学部教授 |
| | 田村 圭子 日本学術会議第三部会員／新潟大学危機管理本部危機管理センター教授 |
| | 小野 悠 日本学術会議連携会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授 |
| | 小澤 盛生 国土交通省水管理・国土保全局河川計画課河川計画調整室長 |
| | 鈴木 耕平 (株)たがやす代表取締役／流域ぶらっとフォーラム共同代表理事／東京大学 農学共同研究員 |
| 17:25 ~ 17:30 | 閉会挨拶 持田 灯 日本学術会議連携会員・気候変動と国土の未来分科会副委員長／東北大学名誉教授 |
| 17:30 | 閉会 |

